



【いぐち つねお さん】高台 / 65歳
●おもに高齢者を対象にギターを使って昭和初期の名曲を演奏し、いっしょに歌いながら思い出を楽しんでもらう活動を行う。

なつかしい昭和の歌をいっしょに歌いましょう！



楽しみながらなつかしい歌を歌います

聴けばそのときや時代を思い出すなつかしい歌・思い出の歌。世代を問わず心に残る1曲があるのではないでしょうか。

井口さんは、介護施設などで高齢者の方に昭和初期の曲をギターで演奏し、いっしょに歌ってなつかしみながら楽しむ活動を行っています。ギターとの出会いは小学生のとき。

「母親が口ずさんでいた曲がラジオで流れ、ギターの音色と詞の調べに感動しました。中学生のとき、アルバイトで貯めたお金で購入して演奏を始めました」と話す井口さん。

社会人になっても仕事のかたわら演奏を楽しんでいたところ、50歳代に病気で視力障がいが起きました。

「視力障がいでも仕事を失い、第二の人生の夢を失いかけていた時でした。知人の勧めがあり、介護施設でギター演奏することになったのです。

演奏すると皆さんが大いに喜んでくれました。ギターでなつかしい曲を演奏することは、人の心を癒す大切な活動ということに気づきました」と語ります。

依頼があれば介護施設やグループホーム、病院、町内会の高齢者の会などに出向いて演奏します。会場では、井口さんがギターを演奏し奥様が参加者に歌いかけみんなで歌って昔をなつかしみませす。

高齢者の方が喜ぶのは昭和初期の曲とのこと。

「中には昔を思い出して涙ぐむ方もいます。寝たきりの方が歌を聴いて起きて歌い出して涙ぐみ、私もとても感動したことがあります」。

「高齢者の方は昭和の激動の時代を生きてきました。高齢者の皆さんのおかげで今私たちはいるのだと考えています。『お疲れ様でした』という思いで心を尽くしていつも演奏しています」と井口さんは感謝の気持ちを忘れません。

「物が豊かな時代ですが、やはり心が大切です。歌を通して心と心がつながるよう活動していきたいですね」と優しく語ってくれました。

人 の い る 風 景
S C E N E R Y O F P E O P L E



TSUNEO
IGUCHI

井口

常夫

さん